

# I 調査の概要

# 調査のあらまし

## 1 調査の目的

県民の行政一般についての意識やさまざまな施策についての意見・要望を明らかにすることにより、今後の県政運営のための基礎資料とする。

## 2 調査の設計

- (1) 調査地域 広島県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 20 歳以上の県民
- (3) 標本数 2,000
  - 広島地方生活圏 1,000
  - 備後地方生活圏 600
  - 備北地方生活圏 400
- (4) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
- (5) 調査方法 自記式郵送調査法(郵送による調査票の配布と回収)  
督促状2回発送
- (6) 調査時期 平成 26 年 10 月 31 日～平成 26 年 12 月 8 日
- (7) 調査機関 株式会社 ミイ・オフィス

## 3 回収結果

区 分	標本数	総回収数	有効回答数	有効回答率
広島地方生活圏	1,000	597	582	58.2%
備後地方生活圏	600	374	371	61.8%
備北地方生活圏	400	255	247	61.8%
不明		8		
計	2,000	1,234	1,200	60.0%

※調査期間外に回収した件数及び無効票を除く

## サンプル設計

- 1 母集団** 広島県内の市町に居住する満20歳以上の県民
- 2 標本数** 2,000
- 3 地点数** 市部 91地点  
町部 9地点 計 100地点
- 4 抽出方法** 層化2段無作為抽出方法
- (1) 層化 広島、備後、備北の3生活圏それぞれについて、市町の規模により4グループ(人口10万人以上、10万人未満、1万人以上、1万人未満)に分類し、層とした。  
(注)母集団は平成26年9月2日現在の各市町住民基本台帳を基に推計したもの
- (2) 標本数の配分 3生活圏それぞれに与えられた標本数(広島1,000、備後 600、備北 400)を生活圏別に層化した各グループの規模の大きさにより、比例配分した。
- (3) 抽出
- ア 第1次抽出単位となる調査地点として、平成22年国勢調査時に設定された調査区(国勢調査区)を使用した。
  - イ 調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20になるように、各層に割り当てられた標本数から算出し決めた。
  - ウ 調査地点数の抽出は、抽出地点数が2地点以上割り当てられた市町については、次の式により抽出間隔を算出し、等間隔抽出法で抽出した。

$$\frac{\text{市町における国勢調査区分}}{\text{市町における調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

- エ 抽出に際して、各層内における市町の配列順序は、平成22年国勢調査における「市町村コード一覧」の配列順序に従った。
- オ 抽出調査地点における対象者の抽出は、調査地点(町・丁目・街区・番地等を指定)内から、選挙人名簿により等間隔抽出法で抽出した。
- カ 以上の作業の結果得られた生活圏別の標本数調査地点は次の通りである。

生活圏		市町規模				計
		人口10万人以上の都市	人口10万人未満の都市	人口1万人以上の町	人口1万人未満の町	
広島地方都市圏	推定母集団	1,382,357	94,905	110,718	12,979	1,600,959
	標本数	780	80	100	40	1,000
	調査地点数	39	4	5	2	1,000
備後地方生活圏	推定母集団	497,364	115,970	14,664	8,798	636,796
	標本数	460	100	20	20	600
	調査地点数	23	5	1	1	600
備北地方生活圏	推定母集団	0	78,283	0	0	78,283
	標本数	0	400	0	0	400
	調査地点数	0	20	0	0	20
計	推定母集団	1,879,721	289,158	125,382	21,777	2,316,038
	標本数	1,240	580	120	60	2,000
	調査地点数	62	29	6	3	100

- 人口10万人以上の市 ・ ・ (広島) 広島市, 呉市, 東広島市, 廿日市市 (備後) 尾道市, 福山市
- 人口10万人未満の市 ・ ・ (広島) 竹原市, 大竹市, 安芸高田市, 江田島市 (備後) 三原市, 府中市 (備北) 三次市, 庄原市
- 人口1万人以上の町 ・ ・ (広島) 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 北広島町 (備後) 世羅町
- 人口1万人未満の町 ・ ・ (広島) 安芸太田町, 大崎上島町 (備後) 神石高原町

### 抽出調査地点数一覧

生活圏	抽出調査地点	標本数	生活圏	抽出調査地点	標本数	
広島 地方 生活 圏	広島市中区 (3地点)	60	備 後 地 方 生 活 圏	三原市 (3地点)	60	
	東区 (3地点)	60		尾道市 (5地点)	100	
	南区 (3地点)	60		福山市 (18地点)	360	
	西区 (4地点)	80		府中市 (2地点)	40	
	安佐南区 (5地点)	100		世羅郡世羅町 (1地点)	20	
	安佐北区 (3地点)	60		神石郡神石高原町 (1地点)	20	
	安芸区 (2地点)	40				
	佐伯区 (3地点)	60				
	小計 (26地点)	520			計 (30地点)	600
	呉市 (6地点)	120		備 北 地 方 生 活 圏	三次市 (12地点)	240
	竹原市 (1地点)	20	庄原市 (8地点)		160	
	大竹市 (1地点)	20				
	東広島市 (4地点)	80				
	廿日市市 (3地点)	60				
	安芸高田市 (1地点)	20				
	江田島市 (1地点)	20				
	安芸郡府中町 (1地点)	20				
	海田町 (1地点)	20				
	熊野町 (1地点)	20				
	坂町 (1地点)	20				
	山県郡安芸太田町 (1地点)	20				
	北広島町 (1地点)	20				
	豊田郡大崎上島町 (1地点)	20				
	計 (50地点)	1,000			計 (20地点)	400
				合計 (50地点)	2,000	

## 対象者の属性

区分		全県		広島地方生活圏		備後地方生活圏		備北地方生活圏	
		実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率
全県		1,200	100.0	582	100.0	371	100.0	247	100.0
性別	男性	527	43.9	244	41.9	175	47.2	108	43.7
	女性	673	56.1	338	58.1	196	52.8	139	56.3
年代別	20～29歳	86	7.2	43	7.4	28	7.5	15	6.1
	30～39歳	130	10.8	82	14.1	34	9.2	14	5.7
	40～49歳	177	14.8	100	17.2	47	12.7	30	12.1
	50～59歳	177	14.8	82	14.1	55	14.8	40	16.2
	60～69歳	320	26.7	147	25.3	100	27.0	73	29.6
	70歳以上	310	25.8	128	22.0	107	28.8	75	30.4
性別・年代別	男性 20～29歳	41	3.4	18	3.1	14	3.8	9	3.6
	30～39歳	46	3.8	28	4.8	13	3.5	5	2.0
	40～49歳	80	6.7	44	7.6	21	5.7	15	6.1
	50～59歳	73	6.1	30	5.2	25	6.7	18	7.3
	60～69歳	151	12.6	67	11.5	52	14.0	32	13.0
	70歳以上	136	11.3	57	9.8	50	13.5	29	11.7
	女性 20～29歳	45	3.8	25	4.3	14	3.8	6	2.4
	30～39歳	84	7.0	54	9.3	21	5.7	9	3.6
	40～49歳	97	8.1	56	9.6	26	7.0	15	6.1
	50～59歳	104	8.7	52	8.9	30	8.1	22	8.9
	60～69歳	169	14.1	80	13.7	48	12.9	41	16.6
	70歳以上	174	14.5	71	12.2	57	15.4	46	18.6
職業別	有業者(計)	668	55.7	332	57.0	187	50.4	149	60.3
	自営業主(農林水産業を含む)	110	9.2	39	6.7	35	9.4	36	14.6
	家族従業者	38	3.2	18	3.1	11	3.0	9	3.6
	会社などの役員	33	2.8	14	2.4	7	1.9	12	4.9
	正規の従業員・職員	296	24.7	151	25.9	84	22.6	61	24.7
	パート・アルバイト・派遣社員など	191	15.9	110	18.9	50	13.5	31	12.6
	無業者(計)	490	40.8	227	39.0	173	46.6	90	36.4
	主婦・主夫	229	19.1	115	19.8	67	18.1	47	19.0
	学生	21	1.8	10	1.7	10	2.7	1	0.4
	無職	240	20.0	102	17.5	96	25.9	42	17.0
	その他	42	3.5	23	4.0	11	3.0	8	3.2

## 報告書の見方

- 1 結果は百分比で表示した。文中及び数表、グラフは小数点第2位を四捨五入したため、合計が100.0%に過不足することがある。
- 2 回答者数は、県全体での回答を求める場合、各生活圏の抽出率の差を調整するため、備北地方生活圏の抽出率を基準として次の方式によって算出した係数を回収数に乗じた加重数値である。

$$\text{①広島地方生活圏の係数} \quad \dots \frac{\text{備北の回収数 (247)}}{\text{備北の母集団 (78283)}} \times \frac{\text{広島之母集団数 (1600959)}}{\text{広島の回収数 (582)}} = \mathbf{8.68}$$

$$\text{②備後地方生活圏の係数} \quad \dots \frac{\text{備北の回収数 (247)}}{\text{備北の母集団 (78283)}} \times \frac{\text{備後之母集団数 (636796)}}{\text{備後の回収数 (371)}} = \mathbf{5.42}$$

$$\text{③備北地方生活圏の係数} \quad \dots \mathbf{1.00}$$

- $(582 \times 8.68) + (371 \times 5.42) + 247 = 7,310$ ・・・回答割合の分母
- 質問文の末尾の(M. A.)とあるのは Multiple Answers の略で、回答者に2つ以上の回答を認めた質問であることを示している。